

1 本校の実態

【第4学年】

国語科・算数科共に、本校の正答率が市平均から5ポイント程度高かった。しかし、国語科においては、「書くこと」「読むこと」領域の平均正答率が50%を切っており、算数科においては、「図形」「測定」領域の平均正答率が60%台でやや低い結果となった。国語では音読学習を充実させたり、物語文における意味調べ等を取り入れたりする。算数では、具体物に触れる機会を多く設けて、視覚的・体験的に知識・技能の習得をめざす必要がある。

【第5学年】

国語科・算数科共に、本校の正答率が市平均から3ポイント程度高かった。しかし国語科においては、「書く」領域の平均正答率が30%台と低く、算数科においては、「データの活用」領域の平均正答率が50%でやや低い結果となった。国語では漢字の学習で、既習の漢字を繰り返し書かせるだけでなく、熟語作りや文章中での活用等日常使いの機会を増やす等工夫した指導を繰り返し行う。算数ではデータの正しい読み方、そこからどのようなことが言えるか等、基本的な知識から復習していく必要がある。

【第6学年】

本校の正答率が市平均から国語科においては4.4ポイント低く、算数科においては1.7ポイント低かった。国語科・算数科共に全ての領域において本校の正答率が市平均よりも低いことから、まずは基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を入れていく必要がある。国語では漢字の読み書き、算数では四則計算、小数や分数の足し算引き算、かけ算わり算等に特化して繰り返し問題を解く必要がある。

2 本校の取組方針（「はちおうじっ子ミニマム」の定着に向けた取組を含む）

- 月1回程度（年間12回、1回あたり40分）水曜日の放課後の時間を利用して「パワーアップタイム」を実施し、算数科の現在の学年もしくは1学年下の学習内容に特化して、基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざす。一人ひとりの実態やその時期の学習内容に即した学習を行う。また担任と家庭で連携を図り、家庭学習の充実を図る。
- 「はちおうじっ子ミニマム」を受けて、朝学習の時間の5～10分を活用し、算数の計算問題等を行うことで、基礎計算を中心とした基礎学力の定着を図る。その際、ドリル型コンテンツ「ミライシード」を活用して繰り返し復習を図る。

3 具体的な取組内容（「はちおうじっ子ミニマム」の確実な定着に向けた取組が分かるように記載）

【校内体制】

○「パワーアップタイム」は、学力向上担当教員を中心に運営する。各学級担任が、算数科における学習に遅れが見られる児童数名に声を掛け、放課後の時間を活用して行う。なお、学年で1つの部屋に児童を集めて学年の担任で指導する等、複数の教員で児童を見ていく等の工夫もしていく。

【取り扱う内容】

○主に「東京ベーシックドリル」を活用し、基礎計算に特化して繰り返し指導することで定着を図る。

第4学年	<p>【パワーアップタイム】</p> <p>○東京ベーシックドリルを基本的に使用し、四則計算やかけ算・わり算の筆算が確実にできるように学習を行う。特に、わり算の筆算については、「わる数が1桁のわり算」、「わる数が2桁のわり算」の問題を繰り返し解き、商の見当を立てられるようにする。</p>
第5学年	<p>【パワーアップタイム】</p> <p>○東京ベーシックドリルを基本的に使用し、わり算の筆算や小数の乗除の筆算が確実にできるように学習を行う。特に小数の乗除の筆算は、かける数やわる数が小数の筆算の問題を繰り返し解き、商の見当と小数点の移動を確実にできるようにする。</p>
第6学年	<p>【パワーアップタイム】</p> <p>○東京ベーシックドリルを基本的に使用し、小数や分数の四則計算を中心とした学習を行う。特に分数の四則計算は、異分母における四則計算の問題を繰り返し解き、約分・通分を含む分数の計算を確実にできるようにする。</p>